

街を行く

第152回 三河島 *Mikawashima*

素朴な生活感にほっとします

山手線日暮里駅で常磐線快速に乗り換え、「三河島」駅までやってきました。23区内のJRでは屈指の乗客数の少ない駅と聞き及んでいたので、実際のところどんな感じなのか興味津々でホームに降り立ちました。

ところがイメージと違いました。台風による不安定な天気にもかかわらず、ホームには思いのほか人がいるではありませんか。逆に不安になりながら改札をくぐりました次第です。街を散策するにあたって、まず歴史を勉強してみようではないですか。昭和生まれの小生、まず頭に浮かぶのは「国鉄戦後五大事故」の一つ、1962年の「三河島事故」です。駅構内で発生した列車脱線多重衝突で、160人の死者を出す凄惨な事故でした。脱線だけでなく、降車して線路上を歩く乗客が反対方向から来た列車に跳ねられる悲劇もありました。電車トラブル発生時はすぐには降ろされず、しばらく車内に閉じ込められるのはその教訓ですね。戦後の高度成長にインフラ整備が間に合わず、こうした痛ましい事故は当時多発したものです。

また、戦前から在日韓国・朝鮮人が多く暮らす街、都内最古のコリアンタウンとしても知られています。至るところに

韓国料理店や食材店を見かけますが、新大久保のように観光地化はされておらず、のんびり散策しながら食事や買物を楽しめそうです。

街なかの雰囲気は決しておしゃれではありません。そのかわり本当の下町風情が味わえます。東京の下町の多くは町興しや観光用に設えられた、見せるためのものがほとんど。三河島は、素朴な生活から自然にじみ出る雰囲気を全く売り物にしません。だからこそそれを見たい人があり、見た人の心が落ち着くというわけです。

とはいって、この街でも高層マンションが次々に開発されています。都心から近くて交通の便が良く、ベッドタウンとして目を付けられたのでしょう。仕方の無いことですが、タワマンが増えると地域の趣が台無しなので、現状のバランスは保つもらいたいものです。マンションをかいぐる細い路地には昔ながらの街の風情がそのまま。古い建物の多くは建替えられていますが、それでも



町並みには昭和の日常が漂う、路面には素朴な生活感がじみ出る

絶妙に路地と調和しています。計画的ではない日常生活が匂い立つ空間、与えられたものでない自らの生活から生み出された風情が最高です。

もっとも、消防法や建物規制から建物維持はむずかしいのでしょうか。本来の街というのは、こういうものではないでしょうか。いつまでも残して欲しいと願うものであります。

今回は、街はだれのものなのか？ 考えさせられました。皆さんもこの街と出会って、是非ほっとしてみて下さい。

南一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。